

# 鹿市医郷壇

本の女性には、振袖に文金高島田が似合います。「田を剥ぐ」の「田を剥く」が効きました。



(479)

樋口一風選

## 兼題「結婚式(「せんけ・」せむけ)」

天

上町支部 吉野なでしこ  
花婿も目を剥いてちょつた高島田  
(唱) 凄いが美人にまた惚れ直えつ  
結婚式場の花嫁はどんな女性でも、美しく見えます。ましてや自分の嫁さんです、美しいはずがありません。文金

高島田の花嫁を見て、花婿の目は点になりました。かねての彼女とは別人のようです。もっと最近は、前撮りがあるそうですが、でも雰囲気が違うと別人みたうに映るのでしょうか。  
ドレスの花嫁も良いですが、やはり日

と思います。年に何回も結婚式があれば、かなりの出費です。句では貧乏者になつたと気持ちを強調してあります。

地 醬油屋孫一  
結婚式でドレスを着ろちダイエツト  
(唱) 一生で一度ん花嫁じやつで

高価で、ドレスをオーダーメイドと言ふ訳にはいかないし、貸衣装となると体形をドレスに合わせなければならないので、ふつくら系のお嬢さんは大変だと思ひます。

五客一席 清滝支部 鮫島爺兒医  
腹ん子が結婚式を催促つ式く挙げつ  
(唱) 早え方が良かち親は喜つ

一生に一度の華燭ですから気に入ったドレスを着たいのはあたりまえのことです。ショウガ、かなり体重を減らさなければなりません。よくあるじとをやらいと詠ります。

人 伊敷支部 谷山五郎猫  
多け友達の結婚式続き貰ひ者じえなつ  
(唱) 浮世ん義理で我家だ火の車  
最近の結婚式のお祝儀は幾ら包むのかわかりませんが、某山の上のホテルなどだと、かなり包まないと恥をかくのでは

五客四席 紫南支部 二軒茶屋電停  
結婚式を一度も挙ぐれば慣れたもん  
(唱) 良か品を貰ひつ儲けた氣がしつ

一生に一度の華燭ですから気に入ったドレスを着たいのはあたりまえのことです。ショウガ、かなり体重を減らさなければなりません。よくあるじとをやらいと詠ります。

五客三席 清滝支部 鮫島爺兒医  
目出度てどん結婚式続き痛て出費  
(唱) 安しか給料でな財布あ空れなつ

一生に一度の華燭ですから気に入ったドレスを着たいのはあたりまえのことです。ショウガ、かなり体重を減らさなければなりません。よくあるじとをやらいと詠ります。

五客五席 印南 本作  
多け親戚じ結婚式ん祝儀へ金が要つ  
(唱) いい難ち結婚式挨拶ち出い涙  
(唱) 親い感謝がしんみいさせつ

一生に一度の華燭ですから気に入ったドレスを着たいのはあたりまえのことです。ショウガ、かなり体重を減らさなければなりません。よくあるじとをやらいと詠ります。

## 秀逸

清滝支部 鮫島爺兒医

結婚式は一度はせんこて盛大と挙げつ  
結婚式を覚えちょらんち女房あ小言  
結婚式は昼間め済ませな大て忙しこ  
結婚式が増れば嬉し子も増つ  
結婚式あ祝儀が大かでしたが得

上町支部 吉野なでしこ  
色直しまこて忙しか花嫁御  
始めかあ嫁御ん父な泣つかぶつ

伊敷支部 谷山五郎猫  
大安の祭場じえドレス花が咲つ

結婚式ん綺麗なドレスい霞ん婿  
空模様は狐の嫁入り迷た傘  
結婚式あ挙げんち言張つ親不孝

結婚式い度々つ出席てん未だ独身  
印南 本作

結婚式を何處ですかうち揉めさせつ

霧島 木林  
薩摩狂句鑑賞 121  
薩摩狂句鑑賞 三條風雲児著から  
横じ親へ何度もそだん親へ何度か迷た貰れ相談

長瀬ヨシ子  
子どもどこのは、当然育てた親に似てくるか、昔から「嫁を貰ろときや、

## 薩摩郷句募集

題吟 号  
題吟 「夢(ゆめ)」  
締切 令和元年12月2日(月)

新年号  
題吟 「除夜(としのばん)」  
締切 令和元年11月5日(火)

選者 樋口一風  
漢字のわからない時は、カナで書いて応募くだされば選者が適宜漢字をあててくださいます。

応募先 千八九一〇八四六  
鹿児島市加治屋町三番十号  
TEL ○九九二二一六三七三七  
FAX ○九九二二一五六〇九九  
E-mail : ihou@city.kagoshima.med.or.jp